

農林水産分野における省CO₂効果の「見える化」について
説明参考資料

全国漁業協同組合連合会 高浜彰漁政・国際部長代理

農林水産分野における省CO2効果の「見える化」について

お名前： 高浜 彰

ご所属 職名： 全国漁業協同組合連合会 漁政・国際部 部長代理

1. 農林水産省においては、地球温暖化対策に資する農林水産業を振興するとともに、温室効果ガスの排出を国民が認識し、省CO2型の生活を選択することに資するために、農林水産業関係者の温室効果ガス排出削減の努力等の「見える化」を検討しています。この農林水産分野における「見える化」についてどのようにお考えですか？

省CO2について、消費者の意識を高めていく必要があることは十分理解出来るが、一律に実施すること、特に個別の食品に表示することについては、以下の理由からそれが適切であるかどうか疑問である。

- ・ 電化製品などの耐久消費財は、その商品を使用することで省CO2に寄与する（あるいは省電力による家計費削減等の効果）ことを期待して消費者が選択すると考えられるが、食品の場合、商品を手にする時点でCO2の排出量は確定しており、消費者の選択が省CO2に直結するものではなく、食品への表示が消費者の選択を誘因するかは疑問である。また、メーカー等の企業にとっては販売促進や企業イメージの向上に繋がることから、積極的に表示していく動きも出てくるのが考えられるが、生産者側にとっては、表示することのメリットが見えない。
- ・ また、水産物の場合、漁法によってCO2の排出量は大きく異なり、また同じ魚種でも漁法や漁場形成など様々な要因でCO2排出量が異なるなど、個別に数値を示すことは極めて困難である。
- ・ 実際表示する場合、店頭で並んでから消費されるまでの時間が極めて短時間であり、個別の商品に表示することの効果、特にコストや労力に対する効果について疑問である。
- ・ さらにはコストを誰が負担するのかを明確にする必要がある。

2. 「見える化」をする場合の表示はどのような方法を考えられますか？

(1) どのような表示内容が良いと考えられますか？目的・理由もあわせてお書きください。また、算定が必要な場合は、算定範囲、算定方法はどのようにされますか？

- ・ 上記1でも述べたとおり、食品の場合は個別商品に表示することは適当ではないと考える。生産者等がCO2排出削減に努力している内容（漁業の場合は燃油消費量削減の取り組みなど）をPRしてはどうか。
- ・ また、国内の農林水産物の利活用は省CO2に貢献することから、国産食品のPRを行ってはどうか。

(2) どこに表示することが良いと考えられますか？理由もあわせてお書きください。

店頭でポスターを貼る。HPなど。

(3) 当該表示を行う場合に考えられる課題をお書きください。

表示に係るコストを誰がどのように負担するのが、重要な課題となると考える。

(4) 低炭素化社会づくり行動計画（平成20年7月閣議決定）では、カーボンフットプリント制度等の「見える化」について、2008年度中にガイドラインを取りまとめるとされています。また、ISOでは、ライフサイクルアセスメントの規格を踏まえたカーボンフットプリント制度規格化検討の提案が行われています。

(1) でカーボンフットプリント表示を選択されていない場合、その理由をお聞かせください。

1. で述べた様に個別の食品に表示することは適当な手法ではないと考える。また、技術的な問題としては、食品において正確に表示する場合には、トレーサビリティが確立している必要があるが、現在はそのような体制になっていない。

3. 表示内容の信頼性の確保についてはどのような方法が良いとお考えですか？理由もあわせてお書きください。

信頼性を確保するという観点に立つと、第三者の認証が必要になると思う。

4. 行政への要望がございましたら記載ください。

2の(1)(2)で、述べた様なPRについて、行政主導で行って頂きたい。見える化による生産者のメリットが不明確な中で、生産者の自主的な取り組みに期待するのは限界がある。

5. その他、「見える化」に係る課題、懸念等あれば記載ください。

例えば、棒受け網で漁獲したサンマと定置網で漁獲したサケでは、明らかにサンマの方がCO₂排出量が多くなる。この場合、サケの方がサンマより環境に優しい魚ということになるのか？個々の水産物にCO₂排出量を表示することは、かえって消費者を混乱させることになりはしないか懸念する。それよりは、漁業界全体でCO₂削減（省燃油）に取り組んでいることをアピールする等の手法を用いた方が良いのではないかと考える。